

河北町 山形県



雛とべに花の里
人輝き
ひらく
未来



2011 河北町勢要覧

発行：山形県河北町
山形県西村山郡河北町谷地戊81
TEL.0237-73-2111
FAX.0237-72-7333
E-mail: info@town.kahoku.yamagata.jp

企画：河北町役場政策推進課
編集・制作：田宮印刷株式会社／株式会社フロット



紅花と最上川がもたらした京文化、河北町 …… 3



気品ある春のほほえみ守り継ぐ時代維の競演 …… 4

華麗なる紅花商人 栄華薫る紅花資料館 …… 6



千百年の正統一子相伝、勇壮の舞 …… 8

悠久の時が花開く歴史絵巻の鼓動（谷地どんがまつり） …… 10



最上川、寒河江川に包まれた豊かな風土 …… 12

新しい町づくりがスタート …… 14



自然と調和する住みやすい町 …… 15

安心して子育てができる町 …… 16



交流が生み出す活力のある町 …… 17

歴史に学び次代を育む町 …… 18



みんなでつくる魅力あふれる町 …… 19



河北町の名産品・特産品 …… 20



河北町の観光と施設のご案内 …… 22

紅花と最上川がもたらした 京文化、河北町



河北町は古くから紅花交易で一世を風靡した町です。
春には、風雅な京文化を伝える時代維が勢ぞろいし、
秋には千百年の伝統薫る舞楽と勇壮な祭典で彩られます。
2011年、河北町では新たなまちづくりの指針である
第7次河北町総合計画がはじまりました。

- 1 自然と調和する住みやすい町
 - 2 安心して子育てができる町
 - 3 交流が生み出す活力のある町
 - 4 歴史に学び次代を育む町
 - 5 みんなでつくる魅力あふれる町
- を目標に掲げ、町民と行政が一体となって推進していきます。

気品ある春のほほえみ 守り継ぐ時代雛の競演

最上川舟運は、特産の紅花を京に運び、
返り荷で生活用品はもちろん、
数多の京文化をこの地に伝えました。
春の訪れを告げる雛人形たちもその一つ。
毎年4月2・3日、旧暦のひまなつりには
代々親から子へと大切に伝えられてきた雛たちが、
豊かな往時を偲ばせ、
春の微笑みを見せてくれます。



全国随一の質と量を誇った 「最上紅花」の里

江戸時代、山形県は紅花の産地として知られました。元禄時代にはその名声は全国的に広まり、最上川流域の肥沃な土地から産出された紅花は「最上紅花」と呼ばれ、品質・収穫量とともに珍重され、京や江戸に運ばれました。

正徳2（1712）年に著された『和漢三才図絵』には、「羽州最上及び山形之産を良と為し、伊勢・筑後



之に次ぎ」と記載されるなど、「最上紅花」は一世を風靡しました。

集散地であった谷地に集荷された紅花は、大石田まで駄送され、最上川で港町酒田まで下り、さらに敦賀を経由して京都へ、そして江戸へと西回り航路で運びました。出羽の国からは、紅花をはじめ、米、大豆、青芋、漆、まわた等が京や江戸に運ばれ、その返り荷として、呉服や瀬戸物、塩、砂糖、さらには絵画や書、京人形等の美術工芸品がこの地に辿り着き、豪商たちの手で次代へと伝えられてきました。

旧家に伝えられる雛人形 華麗なる京文化

この河北町に毎年、春の訪れを告げる雛人形も最上川を通じてこの地に辿り着いた京文化の一つです。面長、きれ長の眼、神秘的な表情をしている享保雛は、紅花染めの衣装で鎮座しています。貝殻を砕いた胡粉で塗られたユ一モラスな表情の御所人形、豪華絢爛な古今雛、そしてつつい誰もがほほえんでしまう愛らしい丸顔で引目鉤



鼻、おちよほ口の次郎左衛門雛…。

ここ河北町のひなまつりは、普段は一般公開をしていない旧家の蔵座敷や大広間の中で全国有数の時代雛の逸品を見ることが出来ます。開催は月遅れの毎年4月2・3日のひなまつり。谷地では、約四百年前から、谷地城主白鳥十郎が市を開いており、その名残りとされています。ひなまつり当日、日本の道百選に選ばれたひな市通りに

は、雛人形、だるま、玩具、郷土の産物などの店が所狭しと立ち並びます。黒光りする柱や梁、職人の技を堪能

できる欄間がある蔵座敷に上がり、すぐ目の前で鑑賞できる時代雛の競演。春告げ魚と呼ばれる鯉や田螺、野

老、あさつき、慈姑、鶏卵、岩海苔の巻き寿司等、みちのくならではの春の膳が添えられます。こうして、河北町の雛まつりは多くの人々に愛され、毎年開催されます。

「お雛見きたつす」、かつては炒った豆に黒砂糖をまぶした雛あられをもらいに家々をまわった子供たち…。そんな光景はあまり見かけなくなりましたが、代々親から子へと守り継いできた雛たちは、今年も春の陽差しのようなやわらかな微笑みを見せてくれます。

また健康と幸福を祈願する「ひな供養」は、秋葉神社境内の雛塚で行われます。

華麗なる紅花商人 栄華薫る紅花資料館



『万葉集』『枕草子』『源氏物語』『奥の細道』…。
数多の文人墨客を魅了した紅の色。紅花の集散地であった河北町は、
江戸時代、空前絶後の繁栄を見せます。その栄華を現代に伝えてくれるのが、
全国唯一の紅花資料館です。紅花の歴史、流通、資料、美しい紅染めの逸品の数々…。
みちのくに花開いた紅花文化の軌跡がいま扉を開けます。

昭和五十九年に開館 豪商の夢の跡

紅花の集散地であった谷地は、江戸時代には山形に次いで商人の町として賑わいました。当時著された『東講商人鑑』をみてみますと、谷地では23件もの店舗の名前が掲載されています。



そのなかでも
富豪といわれた
堀米四郎兵衛の
屋敷跡が、紅花
資料館です。長

屋門、武者蔵、蔵座敷、御朱印蔵が現存しており、昭和五十九年に開館しました。かつて掘米家は、江戸時代から名主や戸長を勤めた家柄で、青芋や紅花の集荷により、財をなしてきました。まず、門から入ってみましょう。格子



片番所付長屋門は京から取り寄せた紅殻を加えてつくったものです。かつては農兵隊の武器庫であった武者蔵、江戸中期の堀建式の蔵で客室として使われていた座敷蔵などが並んでいます。

また御朱印蔵は、朱印状の収容庫であり、近郷吉川村の新山神社からの御朱印状を納めるために、6代目堀米四郎兵衛則勝が建立したものです。明治に入り、全国的に御朱印蔵はほとんど取り壊されたのですが、この蔵は難を逃れました。唐破風向拝付入母屋造の土蔵は、当時の職人の技が結集したものです。職人たちの心意気が伝わってきます。



また館内には、紅花商人・堀米家ならではの武器や生活用品及び古文書等、5千点が保存されています。白石城主

からの拝領品である青銅水盤や明朝螺鈿高台等、贅をこらした逸品も多く、堀米家の繁栄が偲ばれます。



時代を超え息づく 紅の色もあざやかに

山寺の立石寺開創と同時に伝えられた林家舞楽(国指定重要無形民俗文化財)のジオラマも必見です。勇壮な舞は一子相伝の技。またその鮮やかな紅の衣裳は、もちろん紅花染めです。一世を風靡した紅花の歴史や紅花商人の栄光等、古来から人々が憧れた紅の色は、平成の時代になってもその歴史の重みを伝えてくれるようです。

紅の館にふさわしい「紅綸子地霞にしだれ竹文絞縹振袖」「紅綸子地扇面に花模様絞り縹振袖」等、鮮やかに染め上げられた紅の色は、長い時を超えても現代人をひきつけてやみません。紅花とともに生きた紅花商人の繁栄と紅花の歴史を今に語り継いでいます。



千百余年の正統 一子相伝、勇壮の舞

「門外不出」の戒めのもとに
千百余年という長い歳月のなか継承されてきた林家舞楽。
紅染めの衣を身につけた舞人が荘厳な祈りを形にするとき、
人々の祈りが、ゆっくりと新しい時代を刻みはじめます。
いにしえからの息づかいが聞こえてきませんか。



国指定重要無形民俗文化財 日本四大舞楽として成長

谷地舞楽は、東北最大の古刹である
山寺立石寺開山の折、着任した儀式を
司る天王寺楽人林越前政照が、根本中
堂において舞楽を奏したことに遡りま
す。後に、慈恩寺、さらに谷地へと居を移



した林家は、明治以後、谷地八幡宮の司
祭をするようになります。そうして、
代々門外不出、一子相伝として、谷地舞
楽、いわゆる林家舞楽を千百余年もの
間、守り継いできました。

林家に残る『舞楽図譜』をひもとく
と、その種目は二十九番に及びます。し
かし、現在では燕歩、安摩、二の舞、抜
頭、陵王、納曾利、三台、太平楽、遷城
楽、散手、輕樓の十番しか伝承してい
ません。楽器はかつて三管二鼓がそつ
つていましたが、現代では竜笛、太鼓、鞆
鼓、鉦鼓の一管三鼓になっています。

谷地八幡宮例大祭の最大の見物は、
神前の石舞台で奉納される林家舞楽で
す。へに花の里にふさわしい艶やかで荘
厳な衣裳を身につけ行われる林家舞楽
はまさに神への祈り。宮中舞楽、四天王
寺舞楽、南都楽所舞楽と並ぶ日本四大
舞楽の一つに数えられています。

また早く地方に下つたために、林家舞
楽はシルクロードの面影を現代に伝える
貴重なものとして、国の重要無形民
俗文化財として指定されています。



散手 (さんじゅ)



三台 (さんだい)



燕歩 (えんぷ)



二の舞 (にのみ)



安摩 (あま)



太平楽 (たいへいらく)



納曾利 (なそり)



陵王 (りょうおう)



抜頭 (ぼとう)



約四百年もの間、

河北町の人々の心から心へ

その精神を受け継いできた

谷地どんがまつり。

勇壮で谷地男の心意気を見せる凱旋奴、

賑やかに華やかにお囃子を奏でる囃子屋台。

紅花の里の祭典は、

千百年の伝統薫る舞楽とともに

秋のクライマックスを迎えます。



悠久の時が花開く 歴史絵巻の鼓動

(谷地どんがまつり)

紅花が紡ぐ浪漫 河北町最大の祭典

まだまだ残暑が厳しい河北町の初秋。河北町の人々が心待ちにしている谷地どんがまつりが開催されます。約4百年もの歴史を誇るこの祭典は、谷地八幡宮の大祭です。江戸時代の記録には、10万人もの見物客を集客し、大いに賑わったという記載が残るほど善男善女が集いました。

「どんが」という名称の由来は、大祭神事として奉奏される「林家舞楽」に起因します。「オヒヤロドンガ」と呼ばれるこの舞楽ですが、「オヒヤロ」は管楽



器、「ドン」は楽太鼓、「ガ」は鞆鼓の音で、江戸初期から「どんがまつり」と呼ばれています。

祭典は9月の敬老の日を含む土・日・月の3日間、町をあげて繰り広げられます。まず初日には無事祈願の祓式で

幕を開けます。初日の夜神秘的に輝くかがり火のなか、氏子による神輿渡御(こらんじょうまいり)が行なわれ、大当番の御旅所へ出立します。中日は、神事後、本宮へ還る2キロにも及ぶ神輿還御の行列が繰り出し、祭典の最高潮を迎えます。先頭をきるのは、露払いを務める谷地奴。掛け歌入りで練り歩く様子からは、勇壮で質実剛健な威厳が伝わってきます。祭りを盛り上げる谷地奴は明治時代から始まったといわれています。先頭は挟み箱、立て傘、台傘、大鳥毛、黒熊毛、白熊毛、さらに先払い、わらじ持ちなど、30人前後で構成します。ま

た前結びの鉢巻、紺の半てん、赤股引き、白前掛け、脇差し等、独特の衣装も見逃せません。

最終日は京都の祇園囃子の名残を感じさせる囃子屋台の競演が始まります。町内ごとに独自の囃子を奏でる笛太鼓が鳴り響きます。時代が変わっても、ここ河北町には、紅花商人の粋と紅花が紡いだ浪漫がいまも



しっかりと息づいています。





最上川、寒河江川に

最上川とカヌー



包まれた豊かな風土

寒河江川

河北町は、山形県のほぼ中心部に位置し、四方が山に囲まれ、冬の降雪も少なく山形県の母なる川「最上川」と、日本を代表する清流「寒河江川」の交差する肥沃な大地です。四季を通して歳事やイベントも各地で開催しています。

1月
初市(どんがホール)
キャンドルページェント
(谷地八幡宮周辺)

4月
谷地ひなまつり(ひな市通り)
岩木観音まつり
溝延桜まつり

5月
谷地春まつり(皇太神社例祭)
押切田植踊り(押切稲荷神社例祭)
両所田植踊り(両所神社例祭)
たけのこ祭り(紅花資料館)
西国三十三観音まつり
(弥勤寺公園)

6月
世界スリッパ卓球大会
(町民体育館)

7月
べに花まつり(紅花資料館ほか)
べに花マラソン
きゅうり天王祭(谷地八幡宮)

8月
一夜千日観音まつり(大町観音堂)
溝延八幡神社例大祭
沢畑風まつり(沢畑月山神社例祭)

9月
べに花の里俳句大会
谷地どんがまつり(八幡宮例大祭)
全国奴まつり(どんがホール)
岩木豊年太鼓(岩木熊野神社)

10月
かほくほくほく祭り(どんがホール)

12月
晦日市(谷地八幡宮)



谷地ひなまつり



岩木豊年太鼓



溝延桜まつり



押切田植踊り



両所田植踊り



世界スリッパ卓球大会



べに花まつり



溝延八幡神社例大祭



沢畑風まつり太鼓



べに花の里俳句大会



全国奴まつり



かほくほくほく祭り



桜づつみ



さくらんぼ



べに花



秘伝豆



稲作



冬の紅花資料館

新しい町づくりがスタート

めまぐるしく変化する時代に対応し、町民一人ひとりが安全・安心で暮らしやすく、活力あふれるまちを求め、河北町創造・発展計画の成果を尊重し、その理念を継承しつつ、町民と地域と行政が共に目指す町の将来像を定め、それを実現するために2011年に第7次河北町総合計画がスタートしました。



1
自然と調和する
住みやすい町



3
交流が生ま出す
活力のある町



2
安心して
子育てができる町

まちづくりの
将来目標人口20,000人

5つの目標



4
歴史に学び
次代を育む町



5
みんなで作る
魅力あふれる町

理想とする町の将来像を「雫とべに花の里 人輝き ひらく未来」とし、将来目標人口20,000人とする町づくりの5つの目標を掲げました。

自然と調和する 住みやすい町

豊かな自然と調和する質の高い生活環境としていくため、自然環境や景観に配慮しながら町民が住みやすいまちづくりを進めます。

土地利用計画

河北町では、土地利用マスタープランを軸に土地利用を推進しています。

現在、町の総面積52・38km²の約40%が基幹産業の農用地、次いで森林が26%、宅地が9.3%を占めています。母なる最上川、朝日連峰や葉山等が息づく河北町。豊かな自然環境に配慮した住みよい町づくりを推進していきます。

また日本の食料自給率(平成20年)は約40%とますます低下しています。河北町では



住みやすい 生活環境づくり

その現状を踏まえ、食料自給率向上を目指し、農用地の確保、条件整備等を進めます。

河北町では、国道2路線、主要地方道1路線、一般県道5路線、町道353路線が町民の生活を支えています。そのなかでも重要視されているのが、高速交通体系の整備です。国道287号から谷地橋の四車線化や東北中央自動車道の整備を促進することで、町民の暮らしはますます便利になっていくでしょう。



また高齢化の流れは、河北町にも押し寄せてきています。高齢者にもやさしい町づくりを促進するために、町内を循環する町営バスの利用推進を図ります。

さらに、本県の重要な交通基地である山形空港の各路線利用率向上を促す運航の充

実、山形新幹線との連携など、時代に対応する交通輸送体系を構築していきます。



自然と共生した 都市環境づくり

河北町では、最上川グリーンパークの整備を促進するため、かわまちづくり支援制度と連携し、桜つつみやふれあいの場、親水スポーツの場等憩いのある空間をつくりま

す。また一方、無堤地域の解消に向けた、河川改修やしゅんせつ事業により、安全で災害に強い河川づくりを進めていきます。



定住促進住宅



寒河江川・桜つつみ



引竜湖



町民ゴルフ場



安心して 子育てができる町

心身ともに健康で
安心して暮らせるよう、
健康づくりや
介護サービスの充実、
こともを安心して産み、
育てることができる
環境づくりを進めます。

お互いに支え合う 福祉体制づくり

近年、ライフスタイルの多様化とともに、ひきこもりや児童虐待といったさまざまな社会問題が浮上しています。とくに子どもを取り巻く環境は大きな変化を遂げています。核家族や都市化、さらに育児の孤立化、経済悪化に伴う非正規雇用の増大等厳しい社会情勢のなかで、地域全体で安心して子どもを育てることのできる環境整備や子育て支援が急務とされています。河北町では、65歳以上の人口割合が29.2%（平成22年）



を占めています。そういった高齢者が安心して暮らせる支援体制の充実が求められています。地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの支援体制の充実、特別養護老人ホーム「眺葉園」の増床等、地域で支えあうネットワークの確立を目指します。



健康で明るい暮らし

健康でいきいきとした暮らしは、誰もが望むものです。しかし、食生活習慣、ライフスタイルの変化により、様々な健康への弊害が生まれていることも否めません。そこで、河北町では、健康づくり推進都市宣言を行い、「健康かほく21行動計画」を策定。



安心な暮らし

東日本大震災が起こり、さらなる安全・安心な暮らしが求められています。今後、地域防災計画に基づいた自主防災組織の充実と地域防災活動の強化を推進していきます。また交通事故防止のための交通安全教育の開催や交通安全運動の実施、防災意識の高揚と防犯組織の整備、時代に対応する消費者相談窓口の充実を図ります。

交流が生み出す 活力のある町

町の資源や特性を生かし、安定した地域経済を築いていくため、農林水産業、工業、商業、観光の振興を図りながら、それらの連携を強化し、活力のあるまちづくりを進めます。

活力のある農林水産業

豊穰なる大地をもつ河北町での農業は、恵まれた土地条件や、清流寒河江川の基幹水利事業により、安定した稲作が行なわれています。



一方で、農業従事者の高齢化、後継者不足などの問題も深刻化してきているため、新規就農者の支援、安定した農業経営を見据えた農用地の集

創造性のある工業の振興

現在町内では谷地工業団地に20社、花ノ木工業団地では11社が稼働しています。



花ノ木工業団地

町の支援制度の見直しはもちろん、新しい事業分野を開拓する新連携事業の推進等が順次計画されており、激動する時代に対応する企業誘致が望まれています。

魅力のある商業の形成

河北町には、ひなまつり、どんがまつり、紅花資料館等、数多くの観光資源が息づいています。とくに、紅花資料館は町のシンボルとなっています。紅花染め、そば打ち



特色ある観光の活性化

近年、河北町の中心街でも、空き店舗が目立つようになっています。活力ある商店街をめざして、さまざまな商業の振興が進められています。有利な事業資金融資制度の確立、町のオリジナルブランド商品の開発など、河北町の個性を生かした商業の振興に努めています。



紅花資料館



ぶらっとびあ



ひなの宿



ひなの湯



上水道配水池



県立河北病院



介護老人保健施設紅寿の里



地域密着型特別養護老人ホームひなの里

歴史に学び 次代を育む町

歴史と文化を継承し、子どもたちの豊かな人間性を養い、次代を育むまちづくりを進めます。



「生きる力」を育む 学校教育

現代は、少子高齢化、情報社会の進展等、さまざまな問題をはらんでいます。河北町も例外ではありません。

幼児教育においては、幼稚園への就園の奨励、さらに幼稚園、保育所、小学校との連携強化を図っていきます。

また、児童数減少に伴う学区再編、学校図書館施設の整備、教職員研修、研究体制の強化、食育によるより良い食習慣の形成等が望まれていきます。

生きがい に満ちた 生涯学習

学習の対象は、青少年ばかりではありません。生涯を通じた学習環境の整備が必要です。町では、生涯学習推進体制の確立、拠点となる自治公民館の整備充実を進めています。

中央図書館の充実、サハトベに花を中心とする文化活動の



啓発など、大きな意味での生涯教育が期待されています。

特に、図書館は地域文化や生活を豊かにする役割を担います。蔵書の充実や資料保存はもちろん、ボランティア団体との連携をはかりながら読書推進活動を進めていきます。

活力ある生涯スポーツ

長い人生をみつめる上で、スポーツは必要不可欠なものです。河北町では、平成21年、総合型地域スポーツクラブが発足。地域住民の自発的な運営により誰もが気軽に参加できるスポーツ組織を目指します。

町民全員参加のスポーツ大会の開催、一町民一スポーツ運動の啓発等、河北町ならではの魅力ある企画で心身ともすこやかに笑顔輝く町づくりを行なっています。

町民、地域（事業者）、 行政が一体となった 協働のまちづくり

現代社会では、行政に求める要望や課題が多岐にわたっているため、それらに的確に対応し、住民サービスの向上に努める必要があります。

これからも、活力ある住み



よいまちづくりを目指し、町民、地域（事業者）、行政が一体になり協働のまちづくりを推進していきます。

また、長い歳月と歴史の中で、紅花や雛といった河北町固有の文化や郷土芸能が人々によって大切に育まれてきま

みんなで作る 魅力あふれる町

雛とべに花の里づくりのため、町民、地域（事業者）、行政が一体となり、健全な行政、財政を確立し、魅力あふれるまちづくりを進めます。

雛とべに花の里づくり

河北町では、昭和55年から「べに花の里・かほく」というキャッチフレーズを掲げ、個性あふれるまちづくりを進めてきました。

どんがホールや遊蔵をはじめ、紅花資料館の整備を中心とした美しい街並み景観形成、町民による紅花栽培の推進や紅染めの体験、さくらんぼ等の体験観光施設の充実等が進められています。住人と観光客との絆を深め、楽しくふれあえる町づくりが期待されています。



した。友好都市である徳島県藍住町、宮城県石巻市、国際姉妹都市コロラド州キャニオンシティ市等、国内外における交流の促進をはかります。

特色ある観光の活性化

刻々と変化を遂げる現代社会において、行政自体の事務の合理化や見直し、運営の適正化が叫ばれています。

経営的視点をもって、事業目標の実行にあたり、地域主権の推進に努めていきます。

一方で、情報化の波は地方でも社会構造に大きな変革をもたらしています。行政においても、ホームページの充実や土地・家屋登記台帳の電子化、総合行政ネットワークなど、さらなる時代に向けた質の高い住民サービスの向上に努めていきます。



町立河北中学校



県立谷地高校



サハトベに花・中央図書館



歴史資料館・遊蔵



どんがホール



総合福祉センター



議会



河北町役場

河北町の 名産品・特産品

【谷地の冷たい肉そば】

河北町でそばと言えば冷たい肉そば。冬でもつたい肉そば(冷たい肉そば)が天下一品。県内はもちろん、県外からもそば好きがやってきました。山形のご当地グルメを是非ご賞味あれ!



【紅花染め】

紅花の紅色は、平安時代より高貴な色とされ、摘み取った花びらを、洗い、寝かせ“紅餅”にして、染めあげます。

着物地(反物)からハンカチなどの小物まで、色鮮やかな紅色に染められています。



【わら細工】

縄に編む、巻き込む、茎と穂先の質感の違いを使い分けるなど、稲作の副産物として、作られているわら細工。町の人々のたくましい手によって、伝承されてきた匠の技は、動物の筋肉をわらで表現した、十二支の人形という新たな魅力を生みだし、人気を呼んでいる。



【スリッパ】

全国有数の生産額を占め、家庭用の実用品からブランド品まで、品質、デザインともに高い評価を得ており、さまざまなデザインのスリッパを製造販売しております。

河北町は卓球の町としても有名で、毎年このスリッパを使った「世界スリッパ卓球大会」が行われます。



【さくらんぼ】

河北町は、山形県を代表するさくらんぼの産地です。

夏冬・昼夜の寒暖の差が大きい恵まれた気候が、糖度が高く品質の良いさくらんぼを生み出しています。

6月中旬になるとほとんどの農家の人たち、そして観光さくらんぼ園や、体験農業の人たちで賑わいます。

【秘伝豆】

秘伝豆は晩生の枝豆で、ポリウムは日本一と言われており、食べ応えのある品種です。山形で青豆と言え「秘伝」と言われるぐらい独特の香りとここの、美味しい豆として知られています。この秘伝豆を使った豆腐はまさに絶品です。



【地酒】

河北町には、2軒の酒蔵があり、古くから地元の杜氏と蔵人で地域の人々に愛される酒を造っております。

酒造用水は万年雪を頂く月山の伏流水。そして古来より米作りに極めて熱心な土地柄であり、妥協を許さない確かな蔵人の技が美味しい酒を造りあげています。



【ソースかつ丼】

河北町でカツ丼といえばソースかつ丼、揚げたてのカツをあつあつのご飯にのせ、わずかにカレーの香りのする秘伝のタレをかけたものが谷地のカツ丼です。このタレが食欲をそそり、驚きの美味しさです。



【お米】

河北町のお米は、恵まれた気候と月山の雪解け水が注ぎこむ寒河江川の清らかな水で育てられています。

山形を代表する、つや姫、はえぬき、こしひかりなど、高い評価を得ています。



【長芋】

最上川の河川敷で栽培される長芋は、河北町の伝統作物です。



河北町の観光と施設のご案内

山と川に囲まれた、風光明媚な河北町は観光スポットも充実しています。



⑩ 引竜交流広場

① 岩木観音

⑫ 八景園

⑬ 紅花資料館

⑭ 総合交流センターサハトベに花

⑮ ふるさとの森

⑯ サン・スポーツランド河北

⑰ 児童動物園

⑱ 町民体育館

⑨ 谷地八幡宮

引竜湖

⑩ 引竜交流広場

眺望の丘

四国八十八カ所沢畑霊場

Newプラッサムガーデンクラブ

⑮ ふるさとの森

⑯ サン・スポーツランド河北 (楽天イーグルスベに花スタジアム河北)

八景園

⑬ 紅花資料館

総合交流センターサハトベに花

⑭ 町民体育館

職訓センター

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館

⑱ 町民体育館



② 河北町民ゴルフ場



③ ひなの湯



③ ひなの宿



④ 町民プール



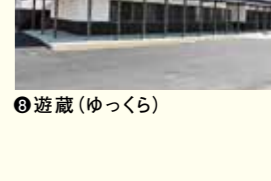
⑤ 三社宮



⑥ 河北中央公園



⑦ どんがホール



⑧ 遊蔵(ゆっくら)

⑧ 遊蔵(ゆっくら)

河北町の伝統・文化

新しい町づくり計画

河北町の観光・名産品

河北町の伝統・文化

新しい町づくり計画

河北町の観光・名産品